

申請者の概要

1. 会社概要

(1)	名 称	岡山電気軌道株式会社	
(2)	設 立 年 月 日	明治43年5月21日	
(3)	本 社 所 在 地	岡山県岡山市中区徳吉町二丁目8番22号	
(4)	代 表 者	代表取締役社長 小嶋 光信	
(5)	資 本 金	2億円	
(6)	主 要 株 主 (平成31年3月31日現在)	両備ホールディングス(株)	30.60 %
		岡山タクシー(株)	13.00 %
		(株)トーキョーリヨービ	12.32 %
		宇野不動産(株)	10.72 %
		その他	
(7)	営 業 収 益 構 成 比	軌道事業	15.3%
		自動車事業	75.9%
		その他事業	8.8%
(8)	職 員 数 (平成31年3月31日現在)	220 名	

2. 路線概要

(1)	区 間	東山本線 3.1 km (岡山駅前～東山・おかでんミュージアム間) 清輝橋線 1.6 km (柳川～清輝橋間)
(2)	施設の概要	軌間:1.067mm 600V
(3)	車 両 数	25両(22編成) うち低床車両 6両(3編成)

3. 沿革

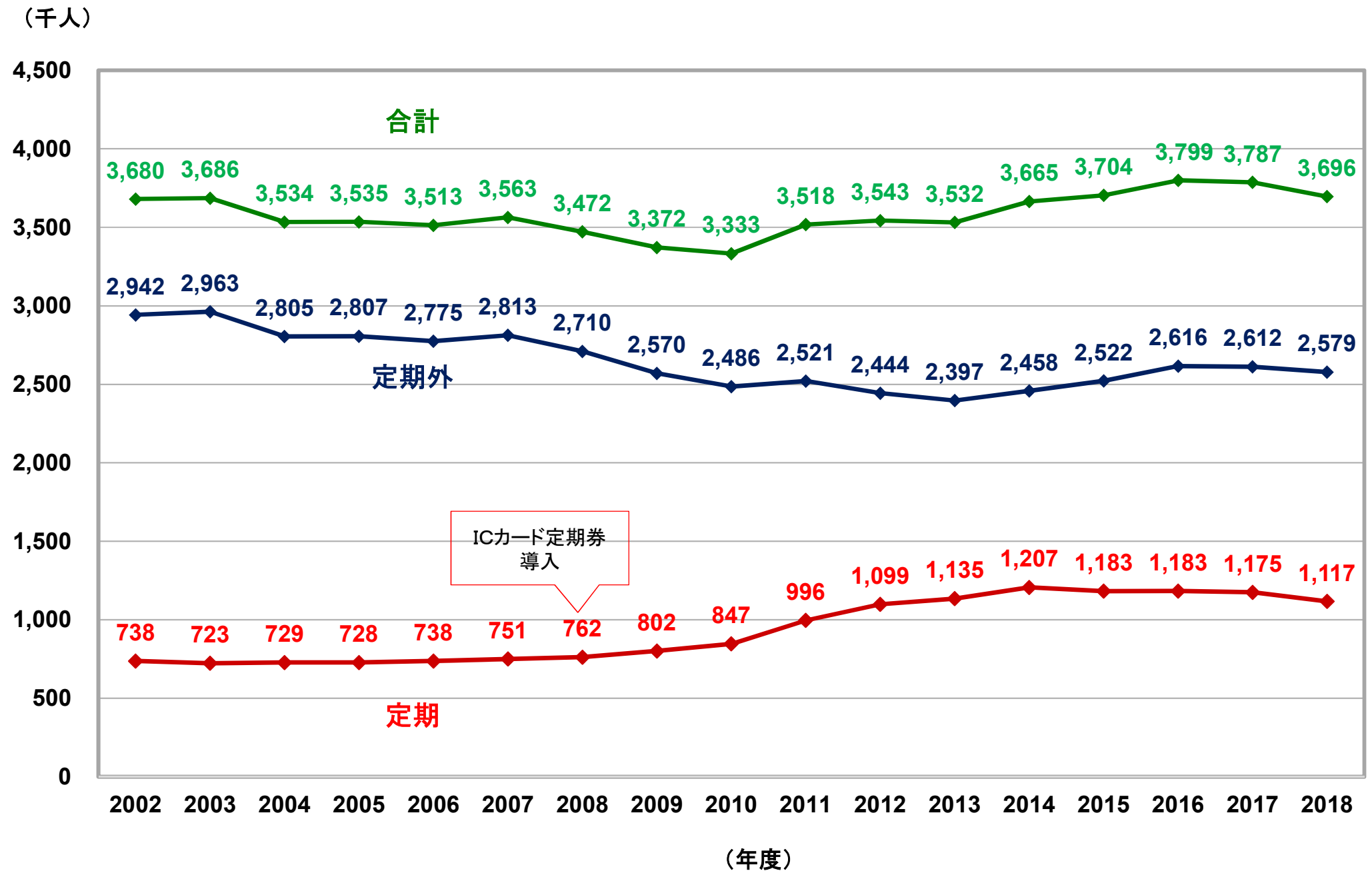
明治43年	5月21日創立
明治45年	5月5日 内山下線(岡山駅前～城下)、内山下支線(城下～後樂園) の運行開始 以降、昭和21年の清輝橋線(大雲寺前～清輝橋)まで、順次路線延長
昭和43年	番町線(城下～番町)廃止
昭和45年	路面電車全線ワンマン化
平成14年	超低床式路面電車「MOMO」導入
平成17年	和歌山電鐵設立(岡山電気軌道100%出資)
平成18年	4月1日 和歌山電鐵が南海電鉄から譲受した「貴志川線(和歌山～貴志14.3km 鉄道線)」の運行開始
平成18年	10月 ICカード「Hareca」導入(ICカード定期券は平成20年に導入)
平成23年	超低床車両「MOMO2」導入
平成31年	3月16日 観光電車「おかでんチャギントン」運行開始



低床車両「momo」

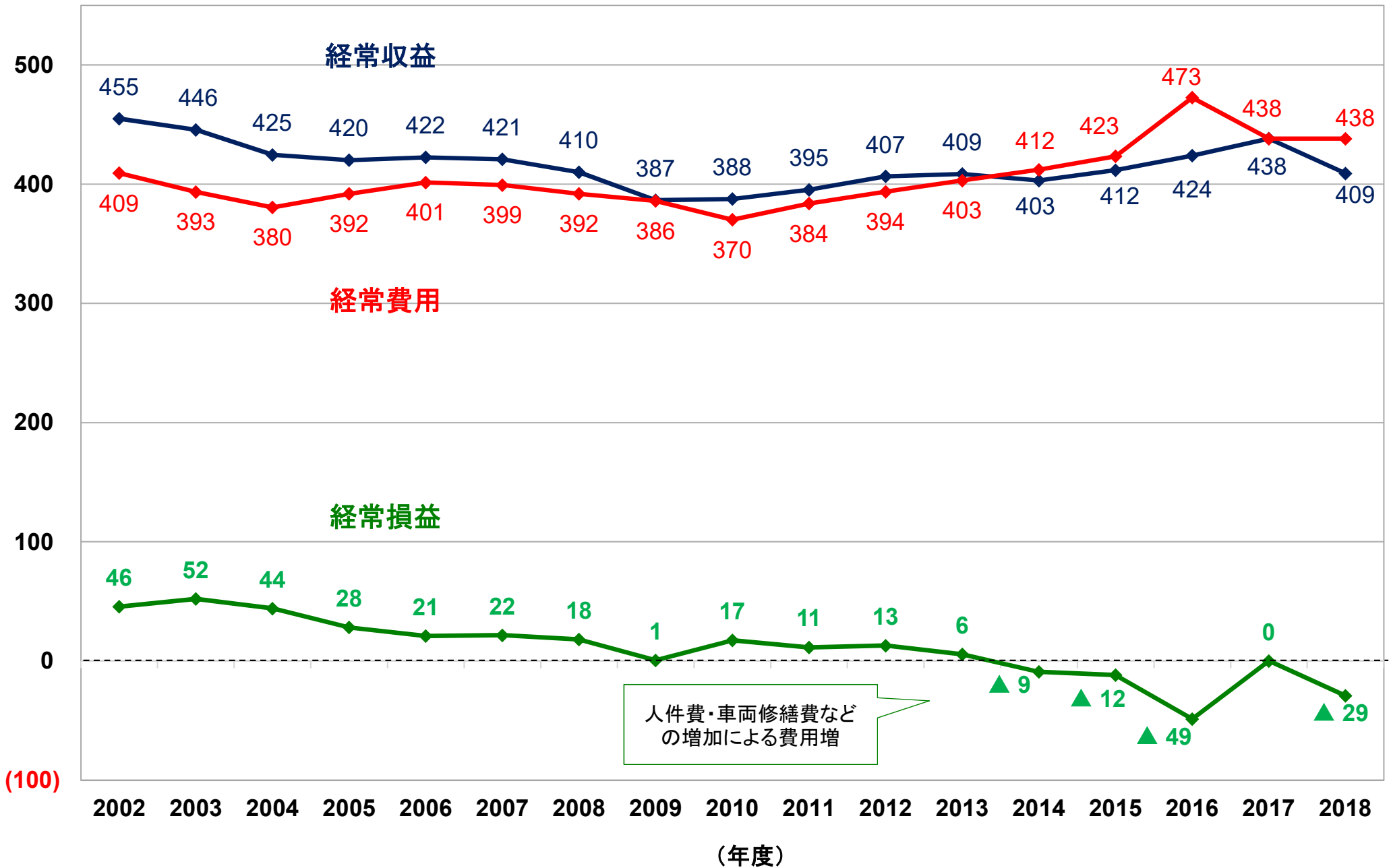
単車タイプ7000系

岡山電気軌道株式会社の輸送人員推移



岡山電気軌道株式会社の経営状況推移

(百万円)



岡山電気軌道路線系統図(現況)



○岡山電気鉄道(株)は、観光電車・企画電車等を通じて、岡山の観光やまちづくりに貢献。

1. おかでんチャギントン電車

- ・国内の路面電車では珍しい観光電車「おかでんチャギントン電車」を導入
(チャギントンは、イギリスで制作されたテレビアニメ)
- ・平成31年3月16日から運行開始

おかでんチャギントン号



3. 架線柱のデザイン化

- ・中央架線柱の先端部を岡山の桃のデザインとし、横の張りを瀬戸大橋風のものに統一。

先端部のデザイン及び瀬戸大橋風の電線張り



2. 年間イベント(主なもの)

コンセプト	四季を通じて、子供から大人まで楽しめるイベント開催やイベント電車の運行により、歩いて楽しい街づくりに貢献
関連イベント	路面電車の日・鉄道の日フェア ひがしやま備前焼市 路面電車運転教室
企画電車	風鈴電車 コンサート電車 クリスマス電車 令和奉祝電車
飲食	ビール電車・ワイン電車 備前美食電車

備前美食電車(5月)



鉄道の日フェア(10月)



延伸計画の概要

- JR岡山駅前広場には、バス、タクシー、一般車が乗り入れている一方で、路面電車電停は離れた位置にあり、市民や来訪者にとって電停の場所がわかりにくく、他の交通機関との乗換に時間がかかるなど利便性が低い状況。
- さらに、JR岡山駅から岡山駅前電停までの経路となる地下道はバリアフリー化されておらず、地上の経路は交差点を2回渡る必要がある。
- 路面電車を岡山駅前広場に乗り入れることで、岡山駅前電停のわかりやすさ向上、JR等との乗換時間短縮などの利便性向上、交差点を横断しないことによる安全性の向上等を図る。

延伸概要

- ・延伸区間：0.1km
- ・停留場：1カ所新設、1カ所変更
- ・工事着手予定：令和2年度(2020年度)
- ・開業目標：令和5年度(2023年度)

整備効果

- ・JR岡山駅乗換時間約1分30秒～3分短縮
- ・JR岡山駅乗換時の交差点横断回数 2回→0回

経緯、今後のスケジュール

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 平成21年(2009年)10月 | 岡山市都市交通戦略策定 |
| 平成26年(2014年)8月～ | 路面電車岡山駅前広場乗り入れ計画案調査検討会 |
| 平成28年(2016年)3月～ | 路面電車乗り入れを含めた岡山駅前広場のあり方検討会 |
| 令和元年(2019年)6月 | 都市計画決定、環境影響評価認可 |
| 令和元年(2019年)8月 | 軌道事業特許申請 |
| 令和5年度(2023年度) | 開業目標 |

事業費概要

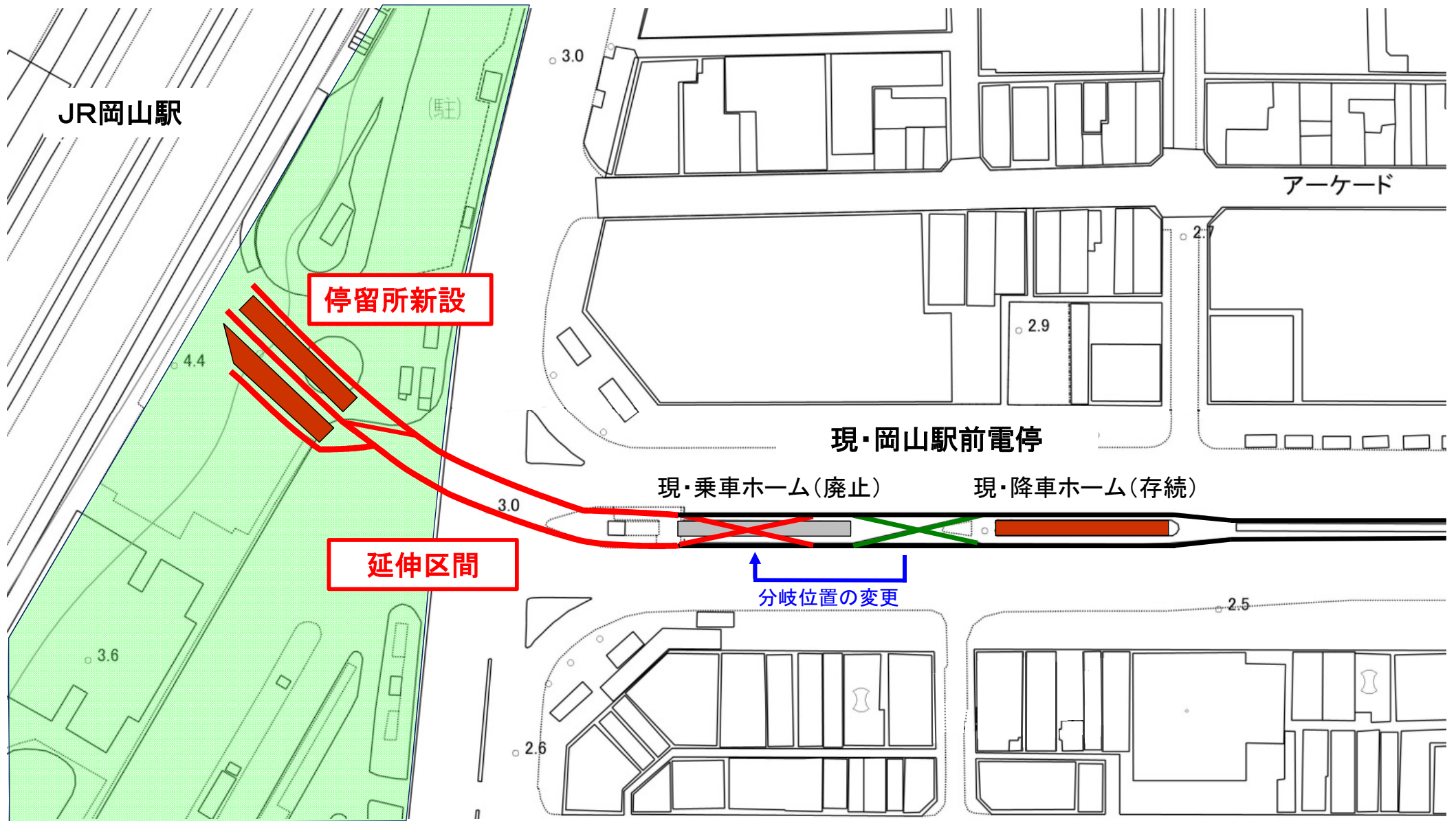
- 総事業費：約16.2億円(駅前広場整備除く)
(うち、インフラ部 約11.1億円 インフラ外部 約5.1億円)
- ※インフラ部は国及び自治体負担を想定
- ※インフラ外部は国、自治体、事業者(それぞれ1/3)負担を想定
- ※国負担分は、社会資本整備総合交付金を想定

岡山電気軌道負担額：約1.9億円

(インフラ外部1/3 1.4億円+設計測量費 0.4億円)



現在の岡山駅前電停

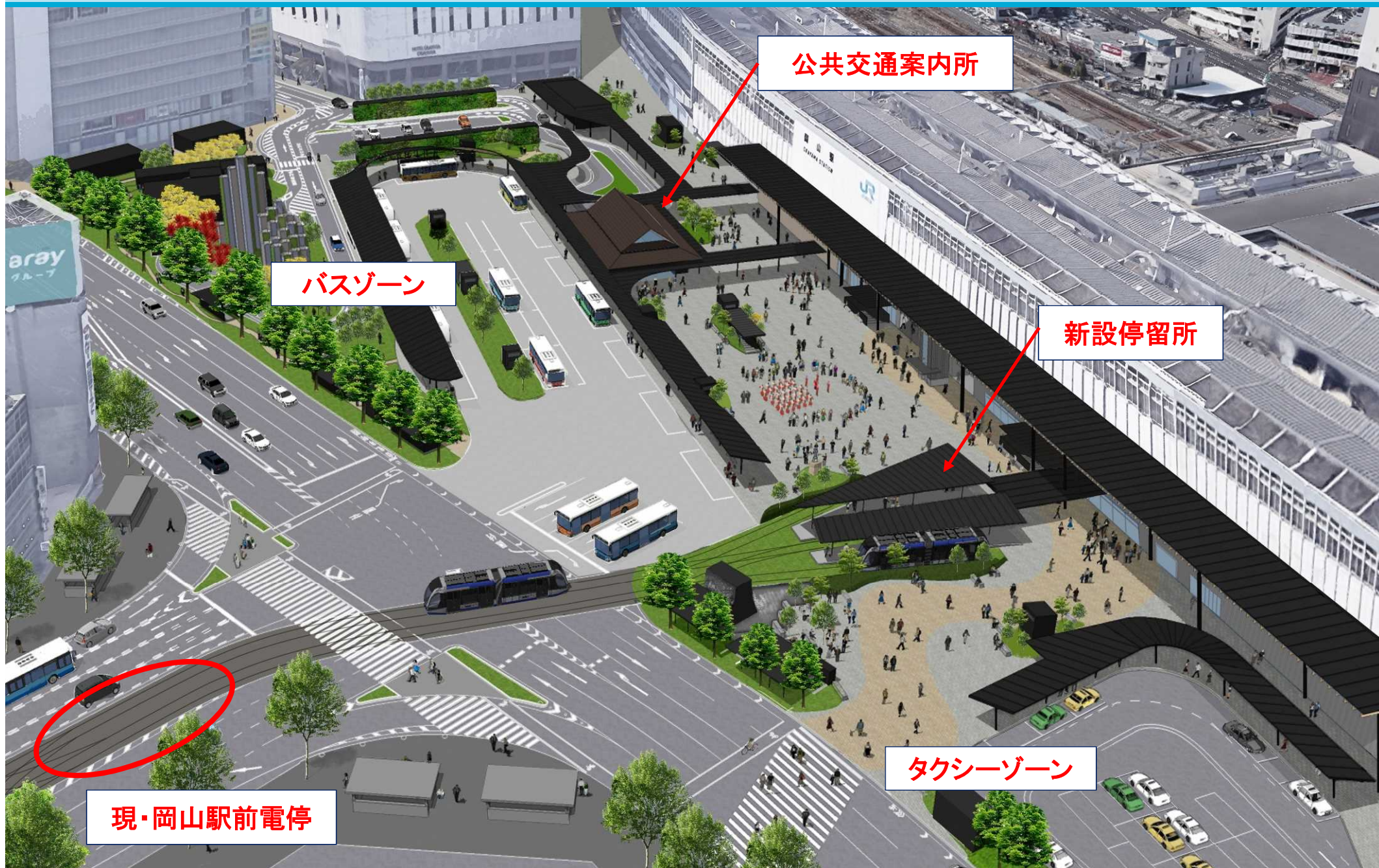


— 新設路線

— 既存路線

— 廃止路線

岡山駅前広場整備イメージパース



○ 電停のわかりやすさ向上

- ・来訪者にとって電停の位置がわかりやすくなり、駅前広場にて移動の選択肢が増える。

○ 乗り換え時間の短縮

- ・路面電車が駅前に乗り入れることにより、JR岡山駅の乗り換え時間が、約1分30秒～約3分短縮

○ 安全性の向上

- ・既存の岡山駅前停留所は、JR岡山駅との乗換に、横断歩道を2回横断する必要があるが、乗り入れにより道路横断が不要となる。

○ その他

- ・雨に濡れずに路面電車電停、バスゾーン、タクシーゾーン、JR岡山駅の移動が可能

乗り換え時間短縮例

